

第 2 回東青地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 校名案の決定方法について

【各委員からの意見】

- 校名案候補を募集する対象は両校の同窓生と在校生、東青地区の中学生で良い。事後意見照会方式が良いが、関係団体等への意見聴取を委員に任せてもらい、浪岡地区の意見として 5～6 案を提案する形にさせてもらおうと進めやすい。
- 事前公募及び事後意見照会方式が良い。校名案候補を募る対象は両校の同窓生と在校生、東青地区の中学生で良いと思うが、多くの方の意見や思いを取り入れることができれば良い。
- 事務的に煩雑にならない範囲で多くの人の声を反映させるのが良い。様々な人が直接自分の声を届けることができるということは大事であり、事前公募及び事後意見照会方式が良い。
- 東青地区の中学生からの提案の全てを本委員会に提示した場合、絞り込み作業が大変になるため、各中学校で絞り込んだ校名案候補を委員が集約し、事前に絞り込みを行った上で本委員会に校名案候補を提案するのが良い。
- 一人の委員がまとめて提案するのではなく、ある程度の委員が校名案候補を絞ってから提案するのが良い。高校側が可能な範囲で取りまとめるほか、中学校に協力してもらえれば、対象ごとに取りまとめた校名案候補が提示されると思う。
- 両校の同窓生及び在校生並びに東青地区の中学校に在籍する中学生以外で、委員に関係する県民などの意見も反映できるようにしてもらいたい。
- 浪岡高校は学校評議員制度、青森西高校は学校運営協議会制度により地域の方々の協力を得ているため、その関係者や P T A の方々も意見聴取の対象にしてもらいたい。
- 校名案候補が出揃った後、両校の在校生の意見を集約し、最終的に本委員会で校名案を 3～5 案に絞ることができると良い。

【第 2 回開設準備委員会におけるまとめ】

- 岡副委員長、岩井副委員長及び今別委員が、両校の同窓生や在校生、東青地区の中学校に在籍する中学生をはじめとする関係者の意見を踏まえ、第 3 回委員会において各 5 案程度の校名案候補を提示し、第 3 回委員会においてその後の意見照会について検討する。

2 特色ある教育活動の方向性について

【引き継ぎたい特色ある教育活動に係る両校からの提案】

〔青森西高校〕

- 文武両道の精神に基づいた学業と部活動の両立を継続させたい。
- おもてなし隊をはじめとする様々な地域貢献活動を引き継ぎたい。昨年度は延べ 4 5 7 名の生徒が参加し、今年度は学校設定教科として単位を認定する。

- 青森西観光大使の活動を継続させたい。修学旅行先で、あおもり創造学で作成した津軽塗のスプーンを活用して青森の魅力を発信することを計画している。
- 本校と同様に近隣に八戸駅のある八戸西高校との協働学習や、新幹線の延伸を見据えた長万部高校との協働学習など、他校との協働学習を継続させたい。
- 三内中学校や新城中学校と連携した教育活動を行っており、統合校でも継続させたい。また、浪岡中学校とも協働の学びを進めていく必要があると考えている。
- 青森大学、青森中央学院大学、青森明の星短期大学と協定を結んでいる高大連携事業も継続させたい。国公立大学とも連携を図りながら、活動を充実させたい。
- 学校運営協議会も継続させたい。浪岡地区も含め、青森市の西地区の持つ教育資源を生徒の学びに活用したいと考えており、小中高の連携の下、地域の方々の協力を得ながら教育活動を充実させていきたい。

〔浪岡高校〕

- 運動会で、こども園の園児と一緒に取り組む障害物競走を実施した。非常に素晴らしい交流であるし、生徒の情操教育にとっても役立っているので継続させたい。
- コミュニケーショントレーニングとして、多様な他者と関わる機会を年間5回程度設けており、どこの高校でも実施できる活動ではないかと思っている。
- 生徒から話をしたい先生の希望を聞き、その先生と会話する機会を設定する「浪高おしゃべりウィーク」という取組を継続させたい。
- 教養コースと商業実務コースを設け、進学や就職に対応できる学習環境を整えており、継続させたい。
- 浪岡地区の様々なボランティア活動にJRC部をはじめとして様々な生徒が参加していることから、ボランティア活動も継続させたい。

【各委員からの意見】

- 空き缶壁画の取組は浪岡高校の校舎があって成立すると考えており、青森西高校の校舎で実現するのは難しいと考えている。浪岡地区で閉校後の浪岡高校の校舎を活用して継続できるような団体があれば良いのではないかな。
- 第2期実施計画に統合校における教育活動の例の記載があり、また、統合しないようにという要望があった際にも同様の活動に係る意見があったので、そのことを踏まえて教育活動について検討してもらいたい。
- 浪岡地区子どもの祭典というイベントは、延べ約200名の中学生や高校生ボランティアがいないと運営できない。統合に当たっては青森西高校の生徒もボランティア活動で手伝ってくれるような機会があれば良い。
- 浪岡地区でボランティア活動を行う場合、移動コストが課題である。公共交通機関を使わない方法など、生徒の移動についても考慮する必要がある。
- 青森市内の小・中学校ではコミュニティ・スクールの活動を取り入れているが、高校と協力する際、小・中学校の委員が高校の会議にどの程度出席するのか、教育活動が校種間で異なる中でどのように活動するのか、などの懸念がある。
- 「この高校に行ったらこれができる」ということが一目で分かるような特色ある学校づくりをしたほうが、これからの県立高校としては強いのではないかな。

- 統合校でできるかどうかということではないが、華道や茶道に触れるような教育活動ができるような教育現場であってほしい。
- 統合校で華道に関する活動ができれば、進学したいと思う生徒がいるかもしれない。市内の中学校19校中7校に華道部があるので考えても良いと思う。
- 美術を専門的に指導する県立高校はないが、県に五つもある美術館で働く人を育てる学科があれば良いという声も耳にする。文化部も志望校を選ぶ材料の一つになり得るし、県立美術館に近い統合校ではそのような学びも考えられる。
- アートという観点では、阿部合成や常田健など浪岡地区ともつながる。また、観光というキーワードでくくるとさらに大きな可能性が見えてくる。青森市内で観光というキーワードで地域をしっかりと見ている県立高校はないと思うので、統合校の特色として打ち出せるのではないかな。
- 地域探究科を設置するなどすれば、これまで両校が取り組んできた活動を拡充させながら、生徒の学びを深め、地域に貢献する人財を育てることにつながっていくのではないかなと思っている。コースや類型を設置しながら、ボランティア活動を単位認定するような仕組みを新たにづくっていかなければならない。
- 県立高校においても、多様な生徒に対応した指導が求められている。そのような中で、統合校を単位制にするということも考えられる。
- 単位制の導入に賛成である。様々な生徒が増えている中、統合校が開設されるときに単位制を導入できないかと思っていたので、検討してもらいたい。
- 教育課程の編成に関しては、作業部会を設置してもらい、先生方の意見や考え方を反映させ、新たな魅力ある学校づくりに向けて早期から検討したい。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 両校がこれまで行ってきた特色ある教育活動を引き継ぐことも含め、充実した教育活動を展開できるよう、本委員会における意見を踏まえながら、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

なお、両校の教員による作業部会を設置し、今年度から統合校の教育課程の検討を進めてもらいたい。